

自分が進んできた道は間違っていなかったと確信した。

残暑の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

この社内報が発行される時には、既にオリンピックは終了しているでしょうが、この原稿は、女子柔道63キ。級の谷本選手(安城出身)が金メダルを獲得した時に書いています。このオリンピックの日本選手の躍進ぶりは素晴らしく、既に柔道、水泳、体操と多くのメダルを獲得しています。



代表取締役社長 吉田治伸

特にご当地出身の谷本選手の活躍は大変うれしく、元気づけられます。谷本選手は、大府の大石道場で学んだようですが、道場の子供達が強くなるために必要な事と教え込まれることは「目標を持つこと」「得意技を持つこと」だそうです。仕事にも共通すると思いませんか(さしあたって、当社の得意技は「笑顔、挨拶、報連相、身だしなみ」であって欲しいと思っています)。

今の若者達は、「楽しみたい」なんて言葉がでますが、その陰には、苦しい練習を乗り越えてきた事は見逃せません。「練習はうそをつかない」という言葉があるように一回勝負のオリンピックに勝つ美しさは、実は、その裏側にあります。オリンピックの結果に表れるものは、決して運の良さが左右するのではなく、日頃の成果であります。

表題の言葉は、マラソンの有森選手がメダルを獲得した時に思った事だそうです。まさに、教科書のない世界を迷いながら、苦しみながら、また、楽しみながら勝ち取った成果に対する素直な気持ちではないでしょうか。

人生というオリンピックで自分が目指すメダルを獲得して是非そんな言葉を言ってみたいものです。

9月になってもまだまだ暑いようです。ご自愛下さい。